

鍼治療によって生じる視力向上効果

鶴 浩幸, 皇甫 泰明, 福田 晋平, 江川 雅人, 片山 憲史

保健・老年鍼灸学講座

「鍼治療を受けると物が見えやすくなる。」とのコメントが患者さんから得られることが多い。このような患者さんの治療後の感想から、鍼治療により一時的に視力が向上することが予想される。そこで、鍼刺激が視力に与える影響について検討した。屈折異常（近視・遠視・乱視など）以外に眼の疾患をもたない被験者（平均年齢23歳, 36名72眼）を対象とし、鍼刺激の前で「裸眼視力（眼鏡やコンタクトレンズを使用しない時の視力）」や「普段、患者さんが使用している眼鏡で矯正した視力」、「完全矯正した視力」などを測定した。その結果、経穴とよばれるツボに鍼刺激を行うと「裸眼視力」や「患者さんが普段使用している眼鏡で矯正した視力」、「完全矯正した視力」などが有意に向上することが分かった。また、合谷穴、攢竹穴、太陽穴などの眼と関係が深いとされる経穴（ツボ）に鍼刺激を行った方が、上記の経穴から位置をずらした部位を鍼刺激するよりもはっきりとした効果がみられた。これらのことから、経穴（ツボ）への鍼治療が視力などの眼の機能改善に有用な治療法であることが示唆された。

駆血圧の違いがヒト安静時における体表の硬さに及ぼす影響

木村 啓作, 渡辺 康晴, 梅田 雅宏, 城田 健吾, 吉田 行宏, 片山 憲史

鍼灸学部 保健・老年鍼灸学講座

【目的】鍼灸臨床において、体表から得られる硬さは、診断情報であると同時に治療の指標としても扱われている。そこで、硬さのメカニズムの一端を解明するために、1) 駆血負荷と動静脈血流および前腕断面積との関係、2) 駆血負荷と硬さとの関係、3) 混合駆血負荷と硬さとの関係を検討した。

【対象・方法】1) と2) では7名、3) では6名の健常成人ボランティアを対象とした。駆血負荷は120と230mmHgを選択し、上腕部の駆血によって駆血下遠位の前腕部を測定した。動静脈血流と前腕断面積の評価には1.5T臨床用MRI装置を、硬さには動的触診システムを用いた。

【結果】動脈血流は120と230mmHgの両群で減少したが、その減少は230mmHgの駆血圧で顕著であった。静脈血流は両群で減少した。前腕の総断面積は230よりも120mmHgの駆血圧で有意に増加し、筋断面積の変化と近似していた。硬さは、230よりも120mmHgの駆血圧で有意に増加した。

【考察・結語】230mmHgの動静脈遮断圧よりも120mmHgの静脈遮断圧で動脈血流の流入、総断面積（筋断面積）と硬さの有意な増加が認められたことから、体表から得られる硬さは筋膜内の容量増加に伴う筋内圧の関与が考えられた。